
心霊写真の作り方

アエン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心霊写真のでき方

【コード】

N0983C

【作者名】

アエン

【あらすじ】

麓を目指し森を彷徨う一人の男。ほんのりホラー？な作品

バサバサという、鳥の羽ばたきに目を覚ます。

一瞬、自分の居る所を失念するが、緑の天井とそこから漏れる白い光線。そして茶色い、いや、こちらも緑の湿った床で、ようやく自分の居る所を思い出す。

いつから居たのかは忘れてしまった。

崖の下に横たわっていた体を起こし、森の中を見渡す。何の変哲もない、ただの森だ。

どうしてこんな所に？

思い出したのに、夢から覚める様に、忘れてしまった。

朝露に揺れる葉を踏み歩き、ふらふらと麓を目指す。

なぜ麓を目指す？

決まっている。下から来たからだ。

いつから物を食べて無いか分からないが、空腹感はない。

そこらに生える怪しげな植物たちは食べたくなかったので、助かったとしか考えなかった。

しばらく進むと木の根に足を取られて転んだ。

しかし痛みは感じなかった。思わずついた手の皮もむけていない。

その事に驚くが、土だからだろうと納得した。

茂みの中に入ると、動物たちに出会った。

不思議なことに動物たちは逃げ出さなかった。

一瞬こちらを見上げ、なんでもない様に股の下をくぐっていく。

何度か驚かせてやろうと足を強く踏み鳴らしたが、平気な顔をしていた。

不思議だったが、それほどに自分が弱っているのだと思った。動物たちに脅威を感じさせないほどに。しかし納得は出来なかった。

出発してから何時間か経ち、歩いている内に、疲れが取れていった。体が軽くなっていくのだ。

おかしいと思うが、体は健康なのだと言った理由をつけた。納得などしようがない。

さらに歩き続けていると、突然、前方の木々が開けた。

やっと山を抜けたのだ。

嬉しくなり、駆け出す。

陽は傾いていた。

どれだけ彷徨った事か。

嬉しくて嬉しくて、体が羽毛の様に軽かった。

地に足がつかない気持ち。

いや、本当に浮いている？

足許を見る。

足が無かった。

しかし奇妙に納得もできた。

無理に理由をつけずとも、《それ》ならばすべての事に説明がつくからだ。

そんなことあるはず無いと、無理に考えない様にしていたが、理解をすると、気が楽になった。

解放感が、気持ちいい。

《それ》を理解した瞬間、俺はすべてから解放されたのだ。

しばらく解放感を味わったあと、ある考えが浮かんだ。

《それ》なら一つ、試してみたいことがある。

実行には、カメラを持った人間が必要だ。

ニヤリと、笑う。

この世で最後の悪戯だ。

《みんな》も、そう思ったんだろっな。

(後書き)

タイトルがネタばれです。
ません。そのまますぎですね。

すみ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0983c/>

心霊写真のでき方

2010年10月12日01時53分発行